

末はダリか北斎か

13歳6回目の個展

天才画家サルバドール・ダリのように独創的で、浮世絵師・葛飾北斎を思わせる繊細な絵を描く「13歳の画家」がいる。甲府市立城南中2年の関根悠一郎君だ。6回目となる個展が、9日から県立美術館（甲府市貢川1丁目）で始まる。ユニークな作風が注目されそうだ。

赤ちゃんのころから絵本を眺めていた関根君。1歳半のころ、父の仕事で甲府市から埼玉県川越市に引っ越し、簡単な絵を描き始めた。2歳半

甲府の関根君 県立美術館で

のときには、家族の誕生日に似顔絵をプレゼントしたほど。3歳での作品「テントウムシ」は、飛んでいる瞬間の羽根をきめ細かく描写して、埼玉県内の幼児絵画展で奨励賞に選ばれた。小学校時代も、児童生徒美術展で特選や入選を重ねた。

甲府市立山城小に移った5年のとき、初めての個展が埼玉県越谷市のアートのスペースで開かれた。6年で2、3回目の個展を甲府市の画廊で催すと、「絵からパワーや元気

をもらいました」と好評に。中学に入ると、東京のギャラリーでも個展が企画された。絵は独学。ダリ、北斎、ルネ・マグリットなど、発想が面白くて不思議な画家が好き。マンガ「ゲゲゲの鬼太郎」の水木しげる、「火の鳥」の手塚治虫の影響も受けている。

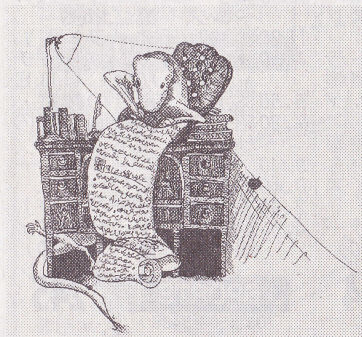
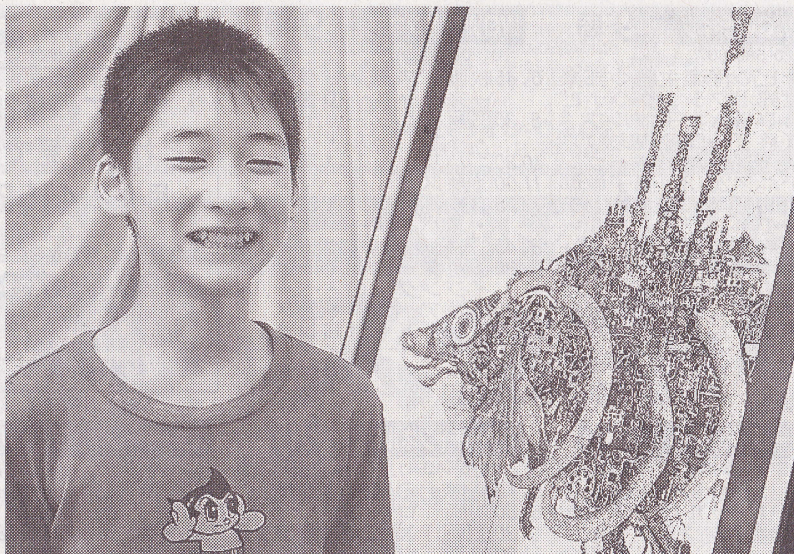
代表作になりそうなペン画「さかなぶっくら飛行船」は、大きくなって空を飛ぶ魚を描いている。体内に住宅街や工場ができて成長するが、エネルギーを消耗するうちに小さくなり、元の大きさのあばら骨が飛び出している——、という作品。未完成ながら、命のつながりや世の無常が伝わってくる力作だ。

9日からの個展「13歳のアーティスト 関根悠一郎展」は芸術イベント「アートフェスタ貢川」での企画。鬼の行列を色彩豊かに描いた「百鬼夜行の夜」たくさんの草花が集まって月になった「紅桜赤月」など約150点を展示する。

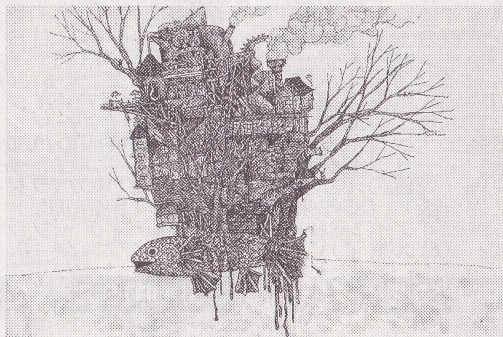
「広い会場で、パンフレットも良くて、恥ずかしいけど、うれしい」と話す関根君。「見る人が『何だろうな？』って、気に留めてもらえたらいいな」

14日まで。午前9時～午後5時（9日は午後1時から。14日は午後3時半まで）。無料。問い合わせ先はアートフェスタ貢川事務局（0555・226・0556）。（渡部耕平）

ペン画「さかなぶっくら飛行船」の前に立つ関根悠一郎君＝甲府市上町



作品「Bill」



作品「Fish House」